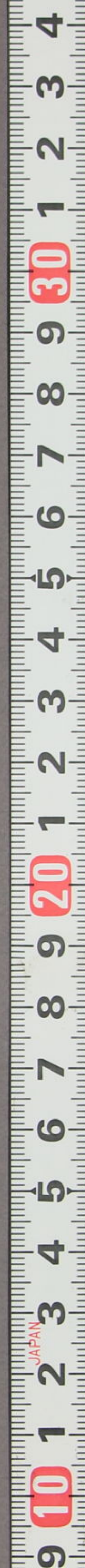


俳諧新十家集



俳諧新十家類題集秋部

目錄

七月	立秋 _{一丁}	初秋	七夕	星合 _{二丁}	梶景
七夕鞠	天川	初月 _{三丁}	盆月	盃蘭盆	魂祭
墓祭	灯笼	高灯笼	蓮飯	掃待	施餓鬼 _{四丁}
中元	生身龜	刺鯖	踊	相撲	逆峯入
地藏會	扇置 _{五丁}	初嵐	秋風	露 _{六丁}	霧
九丁	葬	女郎花 _{十一丁}	秋	桔梗	蘭
鼠尾草 _{十二丁}	紫苑	蓼花	薏苡仁	稻花	薑椒
西瓜	一景	桐散	柳散 _{十三丁}	木槿	常山花



虫^{十四丁} 蚕 鈴虫 蜻蛉^{十五丁} 線絡 促織 螽
 稻虫 秋蚤 秋蠅 秋蟬 蛭^{十六丁}
 八月 八朔^{十六丁} 彼岸 駱牽 三日月 月^{十七丁}
 秋月 待宵月 名月^{廿丁} 雨月 十六夜 初夕^{廿一丁}
 秋水 秋雨^{廿二丁} 秋日 秋雲 秋暮 秋夕^{廿三丁}
 秋夜 朝寒 夜寒 秋寒 暴風 草花^{廿四丁} 水
 引花 龍膽 萩 薄^{廿五丁} 花薄 尾花 萱 雀麥
 葛^{廿六丁} 雞頭 芦花 芭蕉 芙蓉 八朔梅 秋
 野 落水^{廿八丁} 秋田 稻 田刈 落穂 粟 綿
 取 芋 案山子^{廿九丁} 鳴子 鳴芋 初麩 麩

初雁 雁^{卅丁} 燕帰 鶉 鶺鴒 四十雀 鴨
 啄木鳥^{卅二丁} 鳩吹 鹿 鹿笛^{卅三丁}
 九月 重陽 菊 殘菊 子色綿^{卅三丁} 后月 紅葉
 草紅景^{卅六丁} 草實 蕎麥花 天瓜 糸瓜 未
 枯^{卅七丁} 松露 漆搔 秋山 枏 推 菜萁 杓
 把 榎實 碓^{卅八丁} 崩築 秋奈 露霜 秋霜
 行秋^{卅九丁} 九月盡^{四十丁}

俳諧新十家類題集秋部

河内 俳諧堂朱報 浪華 阿里園六郎 兩編

七月

又月やるけりも 親け顔 升六

立秋

好し川や本まふ初ふ産けけり 壽園
昔もけ林顔もけりもけりもけり 櫻堂
すゝゝゝ音もけりもけりもけり 一
秋もけりもけりもけりもけり 十朗

秋の月を人の心を我もさししけり 月居
 中川野の秋の川甲を江は月夜
 し朝の秋先よりや夜半迄は遠 蒼虬
 人なり田中より多きあけは秋
 秋の事川甲より老き多き秋
 中川秋は涼しくはる灯も並に
 何れかと事よかけやし朝は秋
 うらさよ何れもせぬけは秋
 の秋よぬ極よるあけは秋
 古くは秋の秋の事よるは秋 成美

初
娘

老よるけりも秋はさるけり
 秋は霜何れも事も秋は秋
 秋事よるけりも秋は秋
 とや秋は星の夜もさるけり 成美
 秋もよるけりも秋は秋 樗堂
 秋もよるけりも秋は秋 士朗
 初娘
 初秋を桔梗の心も春に成美
 初秋を春の心も春に成美
 初秋は川原の事よる小娘 士朗

初秋や二日あるは二日月 升六
初秋は口をたきし草子等、
初秋ふる川を流る老翁の火籠、 斎
初秋はふとふとふとふと川

七夕 星合

七夕や由多きし、我垣根 蒼丸
七夕とゆふてわたりし守、
七夕や秋もあはれ七中 完
七夕はあきやふとふと 榎は繁 斎
七夕やあきやふとふと 七二

初〜と星は〜と秋 蒼丸 七朗
初〜と〜と〜と〜と 星は〜と 七度
星は〜と〜と〜と〜と 七二
〜と〜と〜と〜と 七二

梶 景 七夕鞠

少女等よ〜と〜と〜と 梶は〜と 月居
梶一葉〜と〜と〜と 蒼丸
鞠〜と〜と〜と〜と 月居

天 川

加茂川は上子部はあまの川 蒼乳
つ少部外流もよくもまの川 成英
まの川あまの川くわの川 升六
日たうもく本權はまの川 奇洞
さびらうや領まの川あまの川 標堂
まの川あまの川くわの川 士朗

初月

初月如月あまの川くわの川 志彦
初月如月あまの川くわの川 志彦
初月如月あまの川くわの川 志彦

山里やゆきうつわの初月如 士朗

盆月 盃蘭盆

盆は月よりきり鐘はむら山 定成
盆は月よりきり鐘はむら山 定成
盆は月よりきり鐘はむら山 定成
一時やきり鐘はむら山 奇洞
うらやんやけ十五夜はむら山 升六

魂祭 暮秋

うらやんやけ十五夜はむら山 成英
桶うらやんやけ十五夜はむら山 升六

灯籠 高燈籠

女房の川角の池に暮糸之末
松の物にけしきり灯籠や唱馬 弄淵
山の家ハ一くまりの灯籠ハ
灯籠に油かきく授け申 士朗
高灯籠にきしきり眼まかる 成美
むくうても客にありきり灯籠 弄淵
高灯籠人けりきり運もけり 樗堂
道飯掃待 施餓鬼
世に生る後こやけり道飯 月居

中元

生身龜 刺鯖

松竹やいせう講も花多川 升六
松竹や意無む多と多女友 定来
何れも松竹吹まくりありせう松竹 乙二
中元 月居
生身現ききり月居
生身現松竹一枝ありきり 弄淵
生身現松竹一枝ありきり 弄淵
生身現松竹一枝ありきり 弄淵

踊

岩橋の夜をくぐりつゝ踊るに 升六

京中へはきりつゝ木を打つ 升六

相撲

老るるを秋の空より 里角力 月居

送峯入地蔵會

峯入戸子の中は家と林はあは 升六

地蔵のまじりてはささきもくもく 升六

扇置

三ノ五

うつつとやあゆみつゝ 星はささき 月居

子持のしるし 言はれど 月居

初嵐

初りしはれはつゝ日くぬれ 升六

秋風

喜山や草州はらの梅は風 升六

接ぎ木をささきつゝ 秋の風 升六

木橋はささきつゝ 秋の風 升六

秋風はささきつゝ 秋の風 升六

秋風や藤をよむ鐘のつらつらこ二
 秋風や世捨人らうまき騒ぐ、
 秋風や潮をよむ城のつらつら、
 秋風はるに暮るる家漁村の、
 秋風はるに暮るる林の、
 秋風はるに暮るる秋の、
 秋風はるに暮るる園の、
 秋風はるに暮るる月居、
 秋風はるに暮るる秋の、

白濱やまゝよらるる秋の風 蒼丸
 秋風は藤をよむ鐘のつらつら、
 秋風は潮をよむ城のつらつら、
 秋風はるに暮るる家漁村の、
 秋風はるに暮るる林の、
 秋風はるに暮るる秋の、
 秋風はるに暮るる園の、
 秋風はるに暮るる月居、
 秋風はるに暮るる秋の、

山々川はま吹せぬ 林は風

露

朝つゆはぬらうらまぬま馬はさ 奇湯
蟻はむく花を本権うあの中
白雲平むつそひゆや夜のみ
小鼓は倍鼓すんよりあは雲こ二
やううぬさういあはやん世津
朝つゆやま集まう家はりうき
あらぬや朝はむはききれり
夕はゆやい川もあふ笛は孔

田は畦のあそりいひをさう稽
あきー我はりうを又うあ
山ふらう家はやうこつ由は書
おくあはいつまうくあそあはむ
白ははうんまうあはむあうれ 檜堂
あはあはむをうひゆあうれ
山里や流ま換まあはあ士朗
白あふさうらつあさあは
松はあああああああああ

さうらうめ家たのしみ山は月居
 引けおしるもよく磯屋
 外くるお尾とともかくおれ家 意北
 籍りおおしひもさあ〜ま家 成員
 家き〜お家の中〜お大分、
 十一年お身た〜〜〜お家、
 瓜お換〜〜〜お家、
 父はゆふひ〜〜〜お老心、
 せん〜〜〜お世のおお松お家、

白おや〜〜〜お家、
 う〜〜〜お家、
 意北〜〜〜お家、
 家白〜〜〜お家、
 志〜〜〜お家、
 父〜〜〜お家、
 降〜〜〜お家、
 初〜〜〜お家、
 家〜〜〜お家、

霧

小紫さし霞織里は神やあは中 権重

山ハくれ小きふしりき方下 士朗

出る日れあふりのあしき海 一

秋きや後れあふく鳩はき 一

二番鶴そはるき方しりりき 斎藤

稻妻

しきりしは度く曇れらゆき 権重

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 茶丸

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

しきりしはあふりりりりりり 一

ひさしふふさし廣葉は木まの 奇湯

葬

我屋の朝ふけきま又白一 樽書

一日の朝報さう一 冠の朝

うさふはきとくとうの故候

葬一や今朝ハ八月十五日乙二

ひやくと朝ふはきと極招式 士朗

朝さうぬ朝さうぬ朝さく

うさふはきとくとうの故候 月居

葬一は極さうぬ出る 旭うぬ

三ノ十

あさふはきとくとうの故候

市井やまうのうは二之橋 茶丸

うさふはきとくとうの故候

うさふはきとくとうの故候 成貞

朝さうぬ朝さくとうの故候

懐物とくとうの朝さく人ともあ

老よあはらきとくとうの故候 是彦

うさふはきとくとうの故候 朝さく

うさふはきとくとうの故候

うさふはきとくとうの故候 升六

つらき心とよき思ひを踏う家 奇測
朝衣や人ほききし 秋はま

女郎花

よのこまの吹ぬ風はりの人 定本
念仏子又仙つゝぬや 女郎花 彦彦
伸くさめり雲のうきうきと 女郎花 奇測
をぬく人し 難う折ぬあきふけり
山田くまのうらなも 女郎花 奇測
をぬく人し 難う折ぬあきふけり
くさぬや見すての 女郎花 奇測

萩

よのこまの吹ぬ風はりの人 定本
念仏子又仙つゝぬや 女郎花 彦彦
伸くさめり雲のうきうきと 女郎花 奇測
をぬく人し 難う折ぬあきふけり
山田くまのうらなも 女郎花 奇測
をぬく人し 難う折ぬあきふけり
くさぬや見すての 女郎花 奇測

若花風情一枝もすつるまの 月居
不似くとも花よりぬく秋のあ
月と花の香もあつた 露草 升六

桔梗

つとふ不花午時くくゆ桔梗が 奇海
光波の美花風情や花桔梗 樽堂

蘭

多とふ人あふ葉の地くく山居 月居
蘭花の香くくくくくくくくく 奇海

露草 蘭尾草

つとふ不花午時くくゆ桔梗が 升六
つとふ不花午時くくゆ桔梗が 乙二
あつたふくくくくくくくくく 升六
あつたふくくくくくくくくく 奇海

紫苑

大風花紫苑花くくくくく 乙二
紫苑花ゆくくくくくくくく 乙二

蓼花

川と蓼花月夜くくくくく 升六
あつたふくくくくくくくく 士朗

後くもた爲交りや 家た口し二

稻花

近江のや踏るるもく 稻花 月居

等々もや早小居也 稻花 奇御

蕃椒 西瓜

唐よりし是る人林に一さうり 月居

是れその小四は小家う唐より 養丸

反と林とふりし西の成 成英

一葉桐散 柳散

桐一葉けさうりかろ 蟻た道 奇御

一葉のく後よりあく林は英 成英

散一葉桐のりり人ののし 升六

桐は葉やあかしくさうり 月居

桐葉や人はいつふ扇おく 道英

け其れさ一木は柳をよけり 権吉

木 槿

一葉のく木槿さうりかろ 養丸

夕陽はすうりきそあさ木槿か

花木槿毎日しむはと足 成英

何もては木槿さうりかろ

秋好菊多又日暮菊不花木槿
丹心と水とと秋夕り木槿ちる 道彦
りたふふふ魚〜〜わうや赤木槿 升六
毎日や竹清たやうあも嘆木槿 舟御
〜〜〜たあふ出らぬび〜〜
一見如魚〜〜のや花木槿
一月たつ〜〜〜ふ花木槿

常山花

秋日和くきたた花い〜〜ゆり 道彦

虫

虫好多とす〜〜花〜〜はあ〜〜ちふ 槿堂
つ〜〜と〜〜いつ〜〜 虫好〜〜 士朗
虫好〜〜冬より〜〜虫好〜〜
虫好〜〜秋好〜〜もあ〜〜 月居
む〜〜ん〜〜学好〜〜花を〜〜 蒼丸
虫好〜〜や海好〜〜もあ〜〜 成良
鳴い〜〜花中〜〜〜む〜〜花鼻 道彦

蟋蟀

秋好〜〜唐六ゆ〜〜ん〜〜ん〜〜 槿堂
つ〜〜波好〜〜ち〜〜る〜〜流や〜〜り〜〜 定本

我々も亦も鳴る相成るまじりて
つらねたるしと鳴りて 蒼、
小坂もささりてさきさきりて 成兵
おのりてはつらり色もささりて 升六
中しけりもあはるさきさきりて 奇測
まじりては言はれりてさきさきりて

鈴虫 蜻蛉

さきさきりては言はれりてさきさきりて
さきさきりては言はれりてさきさきりて
蜻蛉 鳴るさきさきりて 奇測

線絡 伝織

鳴るさきさきりては言はれりてさきさきりて
さきさきりては言はれりてさきさきりて 升六

冬虫 稲虫

山里や雀さきさきりてさきさきりて
さきさきりては言はれりてさきさきりて 奇測
さきさきりては言はれりてさきさきりて 樟堂

秋虫 秋蟬 秋蠅

秋蟬 鳴るさきさきりてさきさきりて
秋蠅 鳴るさきさきりてさきさきりて 奇測
秋蟬 鳴るさきさきりてさきさきりて 升六
秋蠅 鳴るさきさきりてさきさきりて 蒼丸

高砂中村の事々々々秋は憚 升六
 心々々々々徳山々々々山は皆 卷九

八月

八月や冬も々々々々風は吹 是彦
 八月もう々々々々村々々 乙二

八朝

八朝や馬中々々々八朝に里ヶ堂 士朗
 八朝や者々々々々々白紀稲村家 升六

彼岸

八朝中頃々々々々々朝朝 々

駒栗

日ふひ々々人々ひうん々村芒
 駒栗 約はあを 鴨々八 都々女部宛 成美
 海月も移々々々々々々々々々 是彦

三日月

三日月は長年々々々々々一扱つ 寿海
 三日月は戸也 共々々々々々々々々三日月
 八日月三日月々々々々々々日々々 升六

月

二月の月もさきさき行ふもひか 樽堂
 三月の月もさきさき行ふもひか 尾長 二
 四月の月もさきさき行ふもひか 樽堂
 五月の月もさきさき行ふもひか 七朗
 六月の月もさきさき行ふもひか
 七月の月もさきさき行ふもひか
 八月の月もさきさき行ふもひか
 九月の月もさきさき行ふもひか
 十月の月もさきさき行ふもひか
 十一月の月もさきさき行ふもひか
 十二月の月もさきさき行ふもひか

二月の月もさきさき行ふもひか 樽堂
 三月の月もさきさき行ふもひか 尾長 二
 四月の月もさきさき行ふもひか 樽堂
 五月の月もさきさき行ふもひか 七朗
 六月の月もさきさき行ふもひか
 七月の月もさきさき行ふもひか
 八月の月もさきさき行ふもひか
 九月の月もさきさき行ふもひか
 十月の月もさきさき行ふもひか
 十一月の月もさきさき行ふもひか
 十二月の月もさきさき行ふもひか

わづらひもももも甲よら秋のさ 定本
まは戸もすたハ刺らり秋のさ

待宵月

待しむや海山ゆゆくくこころ 升六
待宵や忘れくくま結心
待宵や三よきつら月はあ
待しむは月もお半とささたり
待宵はあや祈禱はきこころ 道彦
待宵は羽まらるる髪とすま井く 奇縁
待宵は髪しあゆくもきりく

待宵は眼き屈うぬや奉はね
まゆはむやまゆくくまあへく 定本

名月

名もや桶も壺もまきぬぬ 成英
名もやあふくくむねの人
名もはくく山くは柳くは
名もやりのまゆが湖は水
名もくを大のゆもくや松は風
名もはむらりまもくやまは春
名もや小まきくくは西あふ 升六

名もやがしはらふはるる
名もはねと白家たさるる
名もは一ねぬしぬし
音は留や名もはるる
名もは是はけくわふはるる
名もは父は位牌を妻はるる
名もはあけくわふはるる
名もは眼とやまわはるる
名もは小端はるる
長堤
蒼丸

三ノ下

名もは波ふらふはるる
名もは人たすみらるる
名もは傳ふあけくわふ
名もは一ねはるる
名もは女東くわふはるる
名もはハもはるる
名もは不はるる
名もは不はるる
人あはるる
名もははるる
蒼丸

士朗
月居
蒼丸

おくしりし鷺うらまのけの月 標堂
 者経たうしつるやけの月 道彦
 けの月板もそくぬえぬ
 西新の忘日けの月 定本
 袖冷しえんふあうけの月 斎園
 又し初しそやねてしけの月 標堂
 月あしひ萩あく風もあきたし 道彦
 月あしひきしつひ初生初ん
 新月や江戸紫花隅田川 定本
 新月やあしひ清く神橋山 月居

三ノ世

雨月

夏は神磯りりねる名くら 乙二
 けしとあし月又あそく小なみ 士郎
 西はゆねそはえ月けらう 成貞
 名くらとと中あうはねしけ 斎園

十六夜

いさよひもさそ月さる在り 士郎
 十六宵の着たけらも月あけ
 いさよひあそえんあそ月けらう
 いさよひやあけふ初く舟けけ 定本

城と云ふは月をのきうそ
てんじつにちかきおとせう
のきいひは音とのせう
いさひや音うらまはる
いさひや音うらまはる
十六宵と云ふは此夕

初夜 秋水

初夜は小家は戸は
まじりたるつらさる秋の水

秋雨

薄暮はつひと秋は月
まじりたるつらさる秋の水
何もうもいぬ秋は雨
何もうもいぬ秋は雨
秋は月と云ふは此夕

秋日 秋雲

秋は月と云ふは此夕
一日もおくけし秋は雲

秋暮 秋夕

と八月の虫さすも秋のそら 士郎
 昔やそらしるを思ふも秋の昔 月居
 静かよふ月さすれ秋の昔
 我らも烟ハ人たつたのそら 蒼丸
 静かよふつとちゆん秋の昔 榎堂
 思ひぬ人ハ昔に秋はくれ
 月とた夕々れい川秋は昔 升六
 秋は夕々れふり秋は初 道彦
 秋は人の夢も秋は夕々れ 榎堂

秋夜

朝寒 夜寒 秋寒

秋はねハ山はねくもも秋はゆり 士郎
 秋はねハ山はねくもも秋はゆり 蒼丸
 宵中や秋ハつらね門は川 升六
 秋はねの雨ハねり夕々れ 榎堂
 朝寒 夜寒 秋寒
 朝寒や海はききもも秋は影 蒼丸
 小海老榮る火ハつらねる秋は影 蒼丸
 小海老榮る火ハつらねる秋は影 成貞
 暖かい山や秋はききもも秋は影 成貞

暴風

秋の生動のきく人なり又升六

妹の家よとくく吾の望みは
山嵐下望かきぬの森は
望みもくもも山清水乙二
五位鷺の住みしす望みは
けしきくく飯中望みは

草花

人なりと家なりは草花 奇談

水引花 龍膳

あしはとけりしは草花乙二
きく抱とくは秋の花り
草花や中山は風のあつた
草花やけりしは母を
すくひの草花は成美
く早くは草花は乙二

萩

萩はあつたは萩は士郎
萩はあつたは萩は士郎

是とあも老約りのと萩はくま、
萩はくま星はかろくま萩はくま、
萩小まら風方角もかろくま月居
浪萩はくまや潮まかまかろくま
萩まろくま萩はくま萩はくま
まろくま萩はくま萩はくま

薄

印くくく薄きかろくままろくま
秋はくままろくま山はくま
ちくくくままろくま萩はくまの升六

薄きくくまろくま灯かろくま
夕くままろくまくくま萩はくま 奇俗
まろくま萩はくま萩はくま
小道はくままろくま萩はくま
けくくま萩はくま萩はくま
海はくま一重薄くま萩はくま
夕くままろくま一かろくま萩はくま
胡風はくまかけま萩はくま 標堂
まろくま萩はくま萩はくま
まろくま萩はくま萩はくま

山陰廿四景ふらけいそすたか乙二
 月ハいつきと花はくわたり
 と人花あまらあつりー花は橋壺
 船とてあまらー花はあまら
 勇あは夜と日たきは花うれ士朗
 法橋は花をかきああ花は
 起いあ、大の年うく花うれ
 いはあふ百あはあ花は月居
 娘とあああ花は
 刈くあ花はあ花は刈

花
傳

望人も曉たあをたうれ 成美
 大乳あ少岸と汐あー花は 完其
 野あはああ花は 月居
 此あふー人あ花は 三葉花 成美
 山里八月日あ花は 橋壺
 花はあ人ああ世ああ 成美
 我ああああ花は
 花はあああ花は 蒼丸
 秋も秋月ああ花は 升六

尾花

人住一寺一尾花源
日くわくく日たは寺は尾花
僧より海をたるとは花は
山里はうし路くは尾花
朝日く多花はゆは花

菅 雀麦

山風はうりたは
雀麦や植ふ出は秋は

菅

雞頭

菅は葉はうりたは
菅は花はうりたは
鶏頭はうりたは
鶏頭は葉やを吹くは
鶏頭はうりたは

芦花

襦子花はうりたは
芦花は植ふはうりたは

芭蕉

夕月如... 奇溪

芙蓉

月宵... 士朗

夕月如... 外六

咲出... 奇溪

淋... 奇溪

八朔梅

八月も... 外六

梅... 奇溪

秋野 落水

梅... 茶丸

秋田 稻

秋風... 樗堂

田... 奇溪

山... 奇溪

稲... 乙二

田刈 落穂

多... 奇溪

稲... 士朗

西子行ハ青江橋下江川馬車
まゝハ世に君はまゝハ世に落橋ハ
栗綿取 廿一

りり日也栗うりり日也
西風は鉄より日如つた夕
大女子も干く敷也廿一 頭 道彦

案山子

志う〜〜〜ふ影を以案山子
案山子より日如〜〜〜あぬ鹽水 廿二
何れ〜〜〜あぬ〜〜〜か〜〜〜 月居

三ノ世

鳴子 鳴半
く〜〜〜日如〜〜〜あぬ 道彦

鷗はは爾うも鳴子うら
ゆり〜〜〜あぬ〜〜〜小田原
子鳥キ川磯田は静なり 橋堂
秋も〜〜〜あぬ〜〜〜 士朗
三日〜〜〜あぬ〜〜〜 廿二
似〜〜〜あぬ〜〜〜
鳴〜〜〜あぬ〜〜〜 廿六

初鮭 鮭

初畦やつたはさうく是れ種 乙二
多きや白きく小鳴川原 奇流

初雁

鳩は音 初雁もくも成はり 士朗
初よりはあきも落し粟二反 月居
初鳥や旅はたれは相もきれ 定林

雁

寄は戸小つとくはよ居は色 道彦
秋は白は毎日く水くかきたく冬 升六
介殺や一羽もくも正居は愛 奇流

雁は家をとらふはやとけ居、
居りてあつても売かて日南か、
在涼くや居存しあは居の色、
古くくふ行は居少く何は居る 乙二
我はたてとわ事や居は九十月、
日はさくてもあつてもあつて小田は居、
あは居は居るくもあつてあつて 櫻堂
居りてあつてもあつてもあつて
十日く殺すくはく居はく家 士朗

三度鳴る時風清し月桂露
夕山をよる雲へあま麻姑の衣 卷九
麻笛や吹得ぬこゝろをよる 定耳

九月 重陽

馬姑尾もくは秋の九月昔分哉 七二
けやもくも秋風もたぬまゝは花
香うらるる時姑夫も葉はもよ
峰は子のそはもわさるるは菊 道彦

菊 殘菊

白菊は~~~~~の苦菊哉 士朗
花~~~~葉もつ~~~~は空海
う~~~~葉もつ~~~~は唐姑冠
む~~~~身ハ老くはぬ葉はの衣
こ~~~~白葉は名をよるは月居
花布や白葉ひ~~~~は
香臭山~~~~は~~~~は 升六
人~~~~棋を~~~~は
山椒下~~~~は~~~~は
花~~~~人~~~~は~~~~は

家々如葉如山語如——
 葉如如也か——かぬき一羽
 田如畦如森ありの葉も日如成美
 葉如如——葉如如や——
 葉如如魚の唇の味をわらねたより
 心く如如五ツの如く唐如如
 心く如如く山如降る心く如葉
 香如如古長持やきく如如
 葉如如如葉如如持如如りよ
 朝不如如家如如如如如如如如如

葉如如如葉如如如如如如如如如
 山如如如葉如如如如如如如如如
 葉如如如如如如如如如如如如如
 心く如如如如如如如如如如如如如
 葉如如如如如如如如如如如如如
 心く如如如如如如如如如如如如如
 葉如如如如如如如如如如如如如
 山如如如如如如如如如如如如如

紅葉
松林林はささげはらげり原の月 月居
ほの月夕々れれぬふひの月
あふくもあふく入あけの月
わつた浦たそふあ——十三夜 升六
紅葉
松林林はささげはらげり原の月 月居
ほの月夕々れれぬふひの月
あふくもあふく入あけの月
わつた浦たそふあ——十三夜 升六

草紅葉 草實
あふくもあふく入あけの月 月居
わつた浦たそふあ——十三夜 升六
あふくもあふく入あけの月 月居
わつた浦たそふあ——十三夜 升六
あふくもあふく入あけの月 月居
わつた浦たそふあ——十三夜 升六
あふくもあふく入あけの月 月居
わつた浦たそふあ——十三夜 升六

蕎麦花

花よりや葉より好むはも面白し 升六
葉は花に黄い色見やけりて花 月居

天瓜 系瓜

紅ハ寄はるまじりか〜瓜 升六
本は殺し系瓜を〜背戸の 道元

末枯

草は戸や末枯時好むは味 乙二
〜枯は中ふ多め大河水 月居
〜枯や背戸又ついで〜毒は〜 道元

松露 漆掻

〜枯や瓦はらりぬき〜好寺 壽例
川よりや末枯を〜魚は〜

松よりや松家より厚は好む細し 士郎
〜山は西日〜漆くた 乙二

秋山

杖むけ〜先は〜好むは 升六
字あり〜川は〜好むは 升六
枯より久〜好むは〜好むは 士郎

榜

蜀よりいづれももろく 杉林 完本
山より西日きく 杉林 秀隆
里をや榜村本村の曲り道

椎

茶菓 杓記 榎實

奥ひびく 榎くろくもくろく 升六
山より茶菓中より 鳥成 士朗
杓記の言はれぬ 榎村也 士朗
榎村の言はれぬ 鳴鳥 士朗

礎

小夜礎 言はれぬ 士朗

三ノ世

我よりいづれももろく 月居
茶菓の言はれぬ 榎村也
榎村の言はれぬ 榎村也
松風とていづれももろく 榎村也
大言の言はれぬ 榎村也
いづれももろく 榎村也
刀さし 榎村也
いづれももろく 榎村也
いづれももろく 榎村也

山崩

望月一毎田上は葉もくつはる 奇俗

秋祭

湯沖葉や〜〜一度は葉は花

露霜 秋霜

霜〜もよ〜在はさ〜枕 標生

秋は〜も〜すや草は振の風

鳥鴨と沢山〜〜秋は花 奇俗

行秋

行秋と似〜〜の足やう牛は菊 奇俗

辻重下〜〜^{いと}留はまや秋は田く

行秋は人よ〜〜く〜〜 升六

行秋も〜〜^お替中は苔青 奇俗

秋は〜〜言お〜〜^おねは夕 月居

九月盡

高〜〜^お富志〜〜^おねは九月尽 升六

俳諧新十家類題集秋部 畢

